

No. 01 図書館で調べよう Part3

インターネット活用法

「パスファインダー」とは、知りたいことがあるとき、どのように資料や情報を探したらよいかの手引きです。調べたいテーマや話題について資料や情報の手始めとなる基本資料の一部や、調べ方を紹介しています。ここで紹介している資料や情報は、あくまでそのヒントの一例です。パスファインダーで得た情報を手がかりにして、様々な角度から調べるときにご活用ください。

例えばこんなときに・・・

「インターネットで検索しても調べたい情報にたどり着かない・・・」

「インターネットで調べるにあたっての注意点は？」

「図書館のパソコンを使うと調べられることって？」 ……など

調べものでインターネットを利用するために知っておきたいポイントや調べものに便利なデータベース情報など、図書館での上手なインターネット活用法をご紹介します。

インターネットで調べるにあたって・・・

情報化社会全盛の現代において、インターネットは調べものの重要なツールの1つです。そこでまずはインターネット検索のメリットとデメリットを知っておきましょう。

【メリット】

- ① 時間や場所を問わない
→検索できる端末があれば時間や場所を問わずに調べられる。
- ② 調べたいことだけでなく関連情報も知ることができる
→新しい着想や視点を得ることで調べものの幅が広がる。
- ③ 知りたいことが簡単に調べられる
→手間がかからないことで調べものが面倒に感じない。

【デメリット】

- ① 情報量が多いので取舍選択が大変
→検索時に絞り込みがうまくいかないと大量の情報がヒットしてしまい、必要な情報を探すのに時間がかかる場合がある。また検索の慣れ・不慣れも影響してしまう。
- ② 情報源や客観性に不安がある
→インターネット上には政府や企業の公式見解から単なる個人の感想、匿名での情報発信まで一様に存在している。「誰が」「どのような意図で」「いつ(更新が滞っていないかなど)」発信したかという**情報の信憑性**を確認するようにしましょう。
- ③ 掲載されている情報に制作者の意図や主観が含まれている可能性がある
→②と同様に、誰でも自由に情報発信できるという特性上インターネットには様々な情報が溢れている。その中には製作者の主義・主観や何らかの意図が含まれているものもある。ひとつのサイトの情報を鵜呑みにするのではなく、いくつかのサイトの情報を比較して判断するようにしましょう。

“聞いた人や見た人が自分でも確認しようとしたら、すでにそのサイトが閲覧できなくなっていた”などということが起こらないように、調べたことを人に教える場合や何かに掲載したりする場合には、特に**情報の信憑性**をしっかりと確かめるようにしましょう。

1. 情報の探し方について本で調べる

※二重線が引いてある図書館の本(図書館名)は館内閲覧のみのため、借りて帰ることができません。

また、所蔵館以外では閲覧できない資料もあります。

— 情報の探し方について —

本の情報	本がある場所/請求記号
『調べるって楽しい!』大串夏身/著 青弓社(2013年)	中央 / 007.58
『インターネットで文献探索』 伊藤民雄/著 日本図書館協会(2022年)	中央 / 007.58 イ22
『スキルアップ!情報検索』新訂第2版 中島玲子/著 日外アソシエーツ(2021年)	中央 / 007.58 ス
『デジタル情報資源の検索』増訂第3版 高鋤裕樹/著 京都図書館情報学研究会(2011年)	中央 / 007.58
『チャート式情報アクセスガイド』大串夏身/著 青弓社(2006年)	中央 / 007.58

2. 調べものに役立つホームページ [2023年4月24日現在]

ここでは、調べものに役立つ便利なインターネット上の情報源をいくつかご紹介します。複数の情報源を見比べたり、紙の資料と照らし合わせたりしながら、目的に応じて上手に有効活用しましょう。

・国立国会図書館サーチ:NDL-Search(国立国会図書館)

<https://iss.ndl.go.jp/>

全国の公共図書館、公文書館、美術館や大学図書館・学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できるサービス。また、アジアの資料(アジア言語 OPAC)、雑誌記事索引、電子ジャーナルのタイトル、点字図書、録音図書、大活字本などの障害者向けの資料検索や英語、中国語、韓国語の翻訳検索・翻訳表示もできる。

・Webcat Plus(国立情報学研究所)

<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所が提供する無料の情報サービス。江戸期前から現代までに出版された膨大な書物を対象としたあらゆる本の情報から「連想検索機能」を使って、必要な図書を効率的に探すことができる。

・e-Gov 電子政府の総合窓口(総務省行政管理局)

<https://www.e-gov.go.jp/>

各府省がホームページで提供している行政情報を1つにまとめて総合的な検索・案内サービスを提供。各府省・独立行政法人(府省別)サイトへのリンクや、方針、計画、白書などの情報がある。

・CiNii Research(国立情報学研究所)

<https://cir.nii.ac.jp/?lang=ja>

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする誰でも閲覧可能な論文データベース・サービス。

・地理院地図(国土地理院)

<https://maps.gsi.go.jp/>

地理院地図とは、地形図、写真、標高、地形分類、災害情報など、国土地理院が捉えた日本の国土の様子をインターネット上で発信している地図。国土地理院が整備する様々な地理空間情報を閲覧できるほか、地形図や写真などを3D表示で閲覧することも可能。

3. オンラインデータベースで調べる [2023年4月24日現在]

オンラインデータベースとは・・・

インターネット上で提供されるデータベースのことで、契約が必要なものもあります。ここでは春日部市立図書館が契約しているデータベースをご紹介します。館内の調査用パソコンでご利用いただけますので、ご利用の際には図書館スタッフにお声がけください。

・官報情報検索サービス(独立行政法人 国立印刷局)

<https://search.npb.go.jp/kanpou/>

昭和22年5月3日(日本国憲法施行日)分から当日発行分(午前8時30分以降に公開)までの官報の内容を、日付やキーワードを指定して検索・閲覧できる。

【利用できる図書館】中央図書館のみ

・国立国会図書館 歴史的音源(国立国会図書館)

<https://www.dl.ndl.go.jp/>

1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された、音楽・演説等の音源をデジタル化したものを収録している。

【利用できる図書館】中央図書館のみ

・国立国会図書館デジタル化資料送信サービス(国立国会図書館)

<https://www.dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館のデジタル化資料で、絶版等の理由で入手が困難な資料を利用できる。

【利用できる図書館】中央図書館のみ

・DI-Law.com(第一法規 株式会社)

<https://dtp-cm.di-law.com/>

憲法から告示までの法令、判例とこれを理解するための要旨・解説情報、また、幅広い収録対象誌から収集した文献情報等の法情報を検索・閲覧できる。

【利用できる図書館】中央図書館、武里図書館、庄和図書館

・朝日新聞クロスサーチ(朝日新聞社有料データベース)

<https://xsearch.asahi.com/>

過去の朝日新聞の記事・広告が検索できる。

雑誌「AERA」「週刊朝日」の記事も収録されている。

【利用できる図書館】中央図書館、武里図書館、庄和図書館

・デジタル伊能図(TRC-ADEAC株式会社)

<https://adeac.jp/ino-demo/top/>

伊能忠敬が作成した「伊能図」や「測量日記」をデジタル化した「Web版デジタル伊能図」を調査・研究用資料として閲覧できる。

【利用できる図書館】中央図書館、武里図書館、庄和図書館

・dマガジン(アップアニー)

https://www.docomo.ne.jp/special_contents/dmagazine/

雑誌を500誌以上読むことができる。

【利用できる図書館】中央図書館、武里図書館、庄和図書館

※情報を参照する際は、発行年・掲載年月日等をご確認ください。情報が古い場合があります。

*さらに詳しく調べたい方は・・・

ここで紹介した資料や情報はごく一部です。もっと詳しく調べたいときや、調べていてわからないことがあるときは、図書館スタッフにご相談ください。

春日部市立中央図書館
電話:048-761-5911

春日部市立武里図書館
電話:048-737-7625

春日部市立庄和図書館
電話:048-718-0200

春日部市立図書館ホームページ: <https://www.lib.kasukabe.saitama.jp/>